

## 挿畫目次

昔の近松座	二
享保十八年七月の古番付	五
書卸「忠臣藏」の二枚番付	一六
紋下太夫を缺く番付	一九
御靈文樂座最後の番付	二三
「化け物」の例を示した番付	三〇
二部興行太夫の語り場の番付	三六
細字を一切抜いた珍しい彦六座の番付	四四
三味線欄のみを示した番付	五二
因會顔付	五八
人形場割本位の番付	六八
人形遣本位の番付	七〇
「中軸一字」を示した番付	七三

「用明天皇職人鑑」の挿繪	八一
人形遣の風俗	八二
出遣ひの風俗と舞臺下駄	八四
多爲藏の「日向島」	九四
玉藏の「日向島」	九五
文五郎の「酒屋」のお園	一〇八
玉藏の「酒屋」のお園	一〇九
榮三の霞ヶ關の由良之助	一二七
御靈文樂座におけるとや觸	一二五
ちか女自筆「文樂芝居引一條書」	一三四
名人團平妻ちか女の小照	一三五
明治九年三月創祀の淨るり神社	一三五
書卸「繪本太功記」番付と口上	一六一
或る日の九日會	一七一
名人豊澤團平の小照	一七五

三代目豊澤廣助の繪像	一七六
三代目鶴澤清七の繪像	一七七
團平自筆の澤市の三味線の手	一九〇
書却「壺坂寺の段」の稽古本	一九一
團平・その葬儀・最後の番付	一九八
七代目野澤吉兵衛と野澤吉彌	二〇八
御靈文樂座の總稽古と攝津	二一五
繪入八行本の挿畫（五葉）	二二四
丸本「薩摩守忠度」の奥付	二三〇
泉州堺が生んだ巨匠五代目竹本春太夫	二三九
近松座新作「乃木將軍」	二四三
近松自筆と傳ふる辭世	二五〇
床裏の朱付	二五九
人形部屋の一部	二九三
人形頭の整理（人形部屋の一部）	二九五

人形頭の品目	二七・二九・三〇一・三〇二・三〇三・三〇四・三〇五・三〇六・三〇七・三〇八
人形の各部分	三三三
吊り肩を吊した肩板	三三五
裸身の人形	三三七
人形遣左手が人形胎内の働き	三三九
「ツキアゲ」の遣方	三三三
手と人形小割帳	三三三
人形遣舞臺の下駄	三三五
首振の古番付(石井飛彈椽、伊藤出羽椽)	三三〇
機巧芝居の番付(竹田近江大椽)	三三一
人形細工師欄(現行の番付)	三三四
近松平家女護島舞臺面	三六一
新築文樂座の開場式の表正面	三六九
總稽古始めの儀	三七一
榮三と文五郎との「壽式三番叟」	三七三

榮三の「鬼界ヶ島」の俊寛	三七四
榮三の辨慶	三七五
越路太夫、名庭絃阿彌七回忌出演の太夫三味線	三七六
辰橋の舞臺面	三七七
榮三の「神崎揚屋」の梅ヶ枝	三七九
「本朝廿四孝」笏掘りの舞臺面	三八一

— 終 —